

ステークホルダー・エンゲージメント

WHY? なぜ重要か

企業の事業活動は、その企業の利害関係者(ステークホルダー)や環境・社会に直接的・間接的な影響を及ぼします。企業が持続可能な成長を続けていくためには、独断で事業を進めるのではなく、対話を通じてステークホルダーの懸念や期待を把握し、互いの関係性が好循環となるように企業経営の決定をしていく必要があります。「ステークホルダー・エンゲージメント」と呼ぶこうしたプロセスは企業の社会的責任を果たすうえでの中心的な取り組みです。

DAIKIN'S APPROACH

ダイキンは、ステークホルダーとの対話や協働を、自社の持続的成長に欠かせないものと考え、お客様をはじめ、株主・投資家、取引先、従業員、地域社会の皆様との対話の機会を大切に、企業経営に生かしています。

また、自社の成長と社会の持続性の両立をめざし、空調技術の普及や製品・サービスの環境性能向上に関して、各国政府・国際機関、有識者などと積極的にかわり、今後も対話・協働を充実させていきます。

有識者や株主・投資家との対話

ステークホルダーとの対話を通じ サステナビリティ経営の方向性を検討

ダイキンは、空調にかかわる有識者と「将来の空調のあり方」について意見交換する場として、1995年に日本で空調懇話会を立ち上げました。2007年度以降、欧州、中国、米国、アジア・オセアニア、中南米地域にもその輪を広げ、各地域を代表する有識者と環境やエネルギー問題について意見交換を行い、技術や商品開発、事業展開に生かしています。

2020年度はコロナ禍で一堂に会せない状況のなかオンラインで北米、中南米、欧州、アジア・オセアニアの地域ごとに計8回開催。のべ22カ国、90人が参加し、関心が高まっている室内空気質や換気に焦点をあてたテーマで議論を行いました。



オンライン懇話会(中南米)

サステナビリティ説明会を実施

ダイキンは、株主や投資家の皆様と積極的に意見交換を行い、経営に生かしていくサステナビリティ説明会を毎年実施しています。オンラインで開催した2020年度はCSR・研究開発・商品開発の役員が登壇し、120人を超えるアナリスト・機関投資家が参加。空調の環境性能に加え、空気質・換気に対する関心事にも

触れながら、社会課題の解決と事業成長の両立を支える当社独自の研究開発・商品開発の取り組みを中心に説明し、意見交換を行いました。

ステークホルダー・エンゲージメントの取り組み

ステークホルダー	主な対話の方法・機会	主な対話窓口
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の営業活動 ● コンタクトセンター ● ショールーム ● 修理時訪問時の対話 ● 代理店感謝会・商品説明会 ● WEBサイト・SNS 	営業部門 サービス部門 総務部門
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主総会 ● 投資家向け説明会 ● アニュアルレポート・事業報告書 ● 投資家向けWEBサイト 	総務部門 コーポレート コミュニケーション 部門
調達取引先	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の調達活動 ● 取引先説明会 ● サプライヤ品質会議 ● 品質監査 	調達部門
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の対話 ● 自己記録表にもとづく面談 ● 経営協議会・労働協議会 ● グループ経営会議 ● グローバルマネージャーミーティング 	全部門 人事部門 経営企画部門
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災訓練時などの地域への説明 ● 工場見学会 ● 地域団体・イベントへの参加 ● 環境教育の実施 	グループ会社 事業所 CSR部門
NPO・NGO	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO・NGOとの対話 	CSR部門
政府・自治体 業界・学界	<ul style="list-style-type: none"> ● 各国政府担当者との対話 ● 国連担当者との対話 ● 業界活動への参画 ● 産官学連携による研究 ● 空調懇話会 	グループ会社 事業所 渉外部門 CSR部門 研究部門